
輪廻

蒼氏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

輪廻

【Nコード】

N3932A

【作者名】

蒼氏

【あらすじ】

永遠に続いてゆく

< b r > 彼は最期のときを待っていた。

< b r > そして僕は、スイッチを持ったまま、彼の姿を凝視していた。

< b r > 彼は静かに目を瞑っており、これから待ち受ける現実を――死を、じっと待っている。

< b r > 僕がこのスイッチを押すのを、じっと。

< b r > 躊躇う必要はない。

< b r > 彼は死すべき存在なのだから。

< b r > 僕よりも一回り小さな身体は、大きな椅子の背に凭れかけて僕を見つめている。といっても、彼は黒い布で両目を覆われているので、僕がそう思うだけなのだけれど。

< b r > 少なくとも、彼に恐れはない。

< b r > 恐れているのは、僕のほうなのだ。

< b r > スイッチを押さなくてはいけない。今さら止めた、ということはない。

< b r > 僕は「彼」を消すことは出来ても、「僕」を消してはいけないのだ。

< b r > そして、彼もここに留まる事は許されない。

< b r > それは彼も承知している。だから穏やかでいられるのだ。

< b r > 一つ、深呼吸をして、手元にある小さなボタンをゆっくりと押した。

< b r > すると彼は小さく身体を震わせて、そのままゆっくりと透け、空間から消滅した。

< b r > 音も立てずに、結び目を残した黒い布が椅子に落ちた。同時に、僕の手の中にあった小さなスイッチも姿を消した。

< b r > 彼は「死んだ」

< b r >「消えた」のではなく、「死んだ」のだ。

< b r >僕は彼の座っていた椅子に近づき、黒に布の結び目を解いてのびし、両目にあてた。

< b r >きつくきつく、頭の後ろで布を縛る。

< b r >今度は僕の番なのだ。

< b r >僕が彼のかわりにこの椅子に座って、新たに誰かがやってくるのを待つのだ。

< b r >そして、死を迎える。

< b r >スイッチを持った誰かの手によって。

< b r >いや、「誰か」じゃない。

< b r >姿を変えた「僕」によって、僕は殺される。

< b r >先ほど死んだ彼も、もとはといえば僕の一部だった。でも必要がなくなったから僕は彼を殺したんだ。

< b r >彼だった僕、そして、僕だった彼。

< b r >確かに存在したはずの僕は、僕の手によって死んでいく。

< b r >繰り返し、繰り返し、僕という存在が朽ちて消えるまで。

< b r >これを成長と呼ぶのなら、僕が此処にいる意味はなんだろう？

< b r >僕がいなくても構わない僕は、一体どんな人間なんだろう？

< b r >考えても答えは出ない。考えても、知ることとは出来ない。

< b r >僕は彼と同じように椅子に深く腰掛けた。

< b r >大きいと思っていた椅子は、僕にはピッタリだった。

< b r >さて、どのくらい経ったら「僕」はやってくるのだろうか。

< b r >彼がやってくるころには、僕も恐れることなく穏やかに死を迎える事ができるのだろうか。

そう、穏やかに…。

end。

（後書き）

あとがき

「成長」とはなんだろう。と考えました。

人間は日々成長していきます。それは目に見える箇所であったり、内的なものだったり。

この作品は、内的な成長を偶像化したものです。

成長とは、生まれ変わることです。育つ事です。

しかし、何処かで「落としてしまわなければならない物」があるとわたしは思っています。

それは苦しみを忘れる為だったり、より多くの知識や知恵を得るためだったり。

育つほどに、時間がたつほどに、私達は何かを自分の中から消してゆく。殺してゆく。

そしてまた、新しい自分が出来ていく。

それは延々と繰り返されてゆくのではないのでしょうか。

そう考えていくうちに、この物語は出来ました。

とても短いので、シリーズに収納しようかと思いましたが、思い切ってこちらに。

ちよっと抽象的過ぎて読みにくいかもしれませんが、読んで下さり感謝です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3932a/>

輪廻

2010年11月5日06時57分発行